

目 次

館 沿 革	1
館 日 誌	2
1. 施設・設備	3
2. 事 業	4
①展 示	5
②展示の概略	6
③企画展	6
④資料収集活動	8
⑤新収蔵資料	8
3. 教育普及活動	9
①勾玉づくり体験教室（上中焼野集落子ども会）	9
②貝輪づくり体験教室（宇宙科学少年団）	9
.....	
4. 入館者数	10
5. 郷土館の組織	11
6. 研究論文	12
烏賊餌木考	12
南種子町文化財保護審議委員 岩澤 昭文	

南種子町郷土館の沿革

- 昭和44年 2月28日：町立博物館設置準備委員を委嘱
- 昭和44年 3月 7日：第1回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 3月25日：資料収集協力員と準備委員との合同会
- 昭和44年 4月14日：第2回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 5月16日：第3回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 6月 7日：第4回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 9月13日：第5回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年11月 1日：旧ユースホステルの1室を使用し、「南種子町立南島民俗博物館」
として開館。
- 昭和44年11月17日：第6回町立博物館設置準備委員会（最終）
- 昭和61年 3月 5日：「南種子郷土館」として開館
- 平成19年 2月 1日：旧郷土館の老朽化に伴い、旧公立種子島病院跡に一時移転して
開館
- 平成21年 4月30日：館内の広田遺跡展示室改修工事

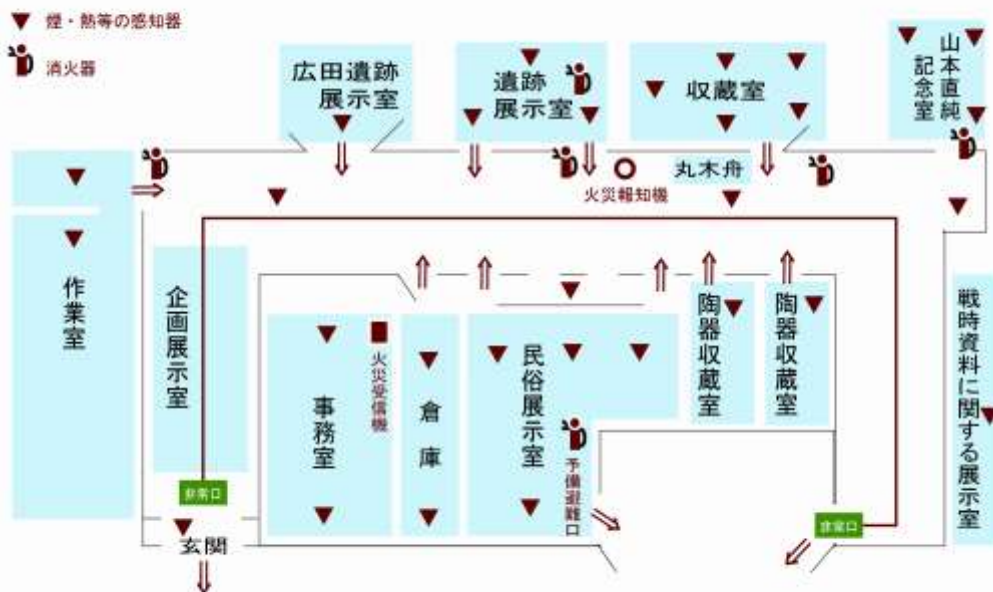
館日誌

- H23.
4. 宝満神社赤米お田植祭
 4. 12 企画展「(平成20年度～22年度) 新収蔵資料展」を開催
(6. 12まで)
 4. 27 町文化財保護審議委員来館
 5. 18 町立島間小学校5～6年生見学
 5. 20 町立島間小学校3～4年生見学
 5. 21 青森県津軽りんご市場「暁峰会」見学
 5. 25 町教職員婦人「バキー会」見学
 7. 21 博物館クイズ スタンプラリー開催(8. 31まで)
 7. 21 勾玉・昔の遊び道具づくり教室開催(8・31まで)
 8. 1 関西「大人塾」見学
 11. 2 町ふるさと祭で、企画展「我が町の赤ひげ先生(向井壽二郎先生の
～3 診察室)」を開催
 11. 5 企画展「我が町の赤ひげ先生(向井壽二郎先生の診察室)」を郷土館
で引き続き開催
 11. 19 上中焼野集落子ども会「勾玉づくり」体験学習
 11. 24 町立長谷小・平山小学校4年生見学
 11. 26 宇宙科学少年団「貝輪づくり」体験学習
- H24.
1. 26 文化財保護審議委員会及び郷土館管理委員会
 1. 26 郷土館火災避難訓練
 2. 15 町立花峰小学校3～4年生見学
 2. 22 町立中平小学校3年生(い組)見学
 3. 6 町立中平小学校3年生(ろ組)見学
 3. 下中八幡神社「お田植祭」

1. 施設・防火設備及び避難経路

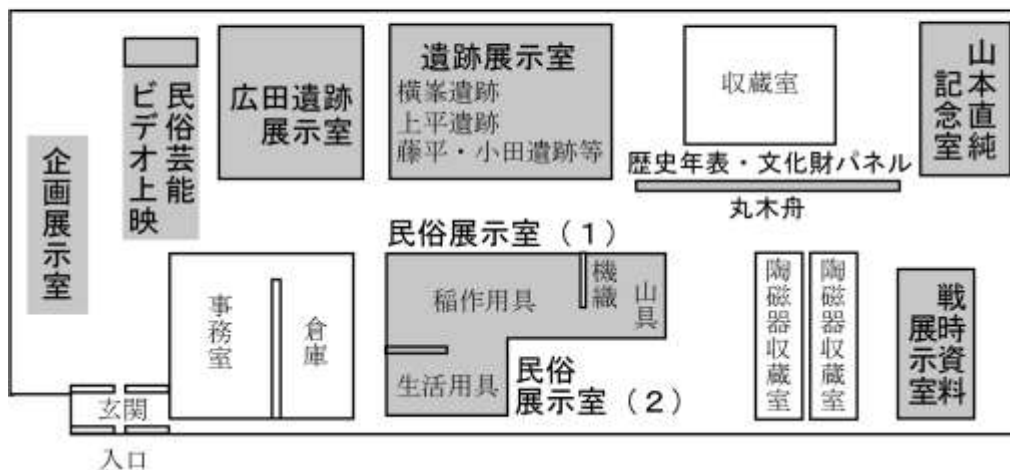


■郷土館の防火設備及び避難経路



2. 事業

①展示



広田遺跡展示室



民俗資料展示室



南西諸島現役最後の丸木舟



戦時資料展示室



山本直純記念室



企画展示室

②展示の概略

■丸木舟と漁具展示

企画展示室確保のため、丸木舟と漁具を廊下へ移動。丸木舟は通常のものと同西諸島において現役で最後まで使用していた丸木舟（牛野春芳氏所有）を隣接し、それぞれの歴史や生活感の違いを感じて欲しいとのねらいもあります。（比較展示）

■広田遺跡展示室

昨年、広田遺跡展示室をリニューアルし、火災から資料を守るため、ドアを防火扉にしました。平成17～18年に発掘した出土品の中から厳選して、展示を行っています。

■遺跡展示室

広田遺跡以外の遺跡関係を展示。現在は横峯遺跡、上平遺跡、藤平・小田遺跡を中心に展示しています。（新たな遺跡が発掘されたい、展示を入れ替えていく予定です。）

■民俗展示室

稲作に関する農具と住まいに関する生活用具を中心に展示。残りのスペースや壁面を利用して機織機、山の道具、桶づくりの道具（タンコ道具）なども展示しています。

■山本直純記念室

山本直純氏愛用の楽器・オーディオ機器・レコード・盾・賞状などの寄贈品の展示。また、山本直純氏との交流のきっかけとなったイベント「トンミーフェスティバル」についてもパネルで紹介しています。

■戦時資料展示室

町出身の「日高保清」大尉の軍服・勲章・遺書などの遺品を中心に展示しています。

③企画展

■企画展「平成20～22年度 新収蔵資料展！」（5月12日～6月12日）



平成20～22年度の3ヶ年に、町民の皆さんから寄贈または、寄託していただきました貴重な資料を「新収蔵資料展」として開催しました。収蔵資料は民具が中心です

が、最も古い資料としては、明治41年の青年会の議事録も見られます。（総数51点）

展示は、わかりやすいように、用途ごとにラベルを配し、すべての資料に少し詳しい説明をつけてみました。（入館者数：一般：55名・小学生：40名・計95名）

◎夏休み特別企画「博物館クイズラリー開催」(7月21日～8月31日)



今年も昨年に引き続き、各館それぞれ1問ずつのクイズを出して、それに答えてもらうといった形式で行いました。昨年は、広田遺跡についてのクイズを出題しましたが、今年は、県指定の「鰐口」が郷土館に寄託されたことで、鰐口に関する問題を出題してみました。また、今年は完走者の記念品を昨年の半分の先着25名にしたこともあって、初日から8名の参加者が訪れ、内3名

はその日に全ての館を完走されました。

結果は、本町で全館全て完走された方は22名でした。

参考：中種子町21名・西之表市15名でした。）

＝クイズラリー参加博物館＝

- * 南種子町：南種子町郷土館・たねがしま赤米館
- * 中種子町：中種子町立歴史民俗資料館・古市家住宅
- * 西之表市：種子島開発総合センター（鉄砲館）・赤尾木城文化伝承館（月窓亭）



◎勾玉（竜佩）づくり&昔の子供のあそび道具づくり体験教室開催

今年も昨年好評だった勾玉（竜佩）づくりと割ばし鉄砲やブンブンゴマなどの昔の遊び道具づくり体験教室を行いました。



割ばし鉄砲づくり体験

ブンブンゴマづくり



勾玉・竜佩づくり

■ 我が町の赤ひげ先生「向井先生の診察室」（11月2～3日）



町のふるさと祭「展示発表会場」において企画展を開催。今回は本町平山出身の医師で、無医村であった戦前戦後の南種子町（村）の医療を、ただ一人で支えた向井壽二郎先生の企画展を開催しました。向井先生は寡黙な方でしたが、貧しくて治療費の支払えない患者からはお金をもらわなかったり、治療費の代わりに魚の干物などの現物で済ましたり、まさに我が町の「赤ひげ先生」でした。

写真は、旧向井医院の診察室に保管されていた診察机・ベッド・薬品棚・顕微鏡などを御子息から郷土館に寄贈していただいたことで、その診察室を復元展示したものです。

その後は、郷土館のエントランスで引き続き開催。

④資料収集活動

今後も町の広報紙での呼びかけや文化財保護審議委員からの情報提供をお願いしながら、資料の収集活動を行っていきます。

⑤新収蔵資料（平成23年度）

提供者	住所	資料名（個数）
有留 涼子	上 中	カメ（2）・ツボ（2）・置コタツ（1）
向井 俊二郎	千 葉	診察机（1）・診察椅子（1）・患者椅子（2）座机（1） 診察ベッド（1）・薬品棚（2）・カルテ棚（2） 顕微鏡（2）・身長計（1）・仕切りカーテン（1） 待合室用椅子（1）・表彰状（2）・絵画（1） 木製椅子（1）・炭入れ壺（1）・七輪（2）・ツボ（1） ハガマ（2）・蒸籠（1）・火鉢（1）
平野 性賢	上 中	向井壽二郎先生関係資料（1） わが町・本町50年展関係資料（117）
居川 寿子	東 京	表彰状（4）・冊子「種子ばさみ」（1）・写真複写（8）

3. 教育普及活動

①上中焼野集落子ども会 勾玉（竜佩）づくり体験（11月19日）

平成23年11月19日、上中地区の焼野集落子ども会の皆さんが、青少年育成の日を利用して勾玉（竜佩）づくり体験を行いました。雨天のため、ノコギリと紙やすりを併用して、時間内に完成するように進めました。今回初めてつくってみたという人も、数人いて苦戦していましたが、自分だけのアクセサリができたと喜んでいました。



②宇宙科学少年団 貝輪づくり体験（11月26日）

11月26日、南種子町宇宙科学少年団の体験学習講座で、貝輪づくりを開催しました。貝輪は貝でつくられた腕輪のことで、広田遺跡からもゴホウラやオオツタノハといった貝でつくられた貝輪がたくさん発見されていますが、講座では、加工しやすいベンケイガイを使って、貝輪づくりに挑戦しました。自分の腕に入るように、シカの角で慎重に形を整えながら砕いていきます。そして最後に、サンドペーパー（目の細かい1000番ぐらいのもの）で根気よく表面を磨いていくと、艶が出てとてもきれいになります。

（講師は、社会教育課文化係 小脇有希乃）

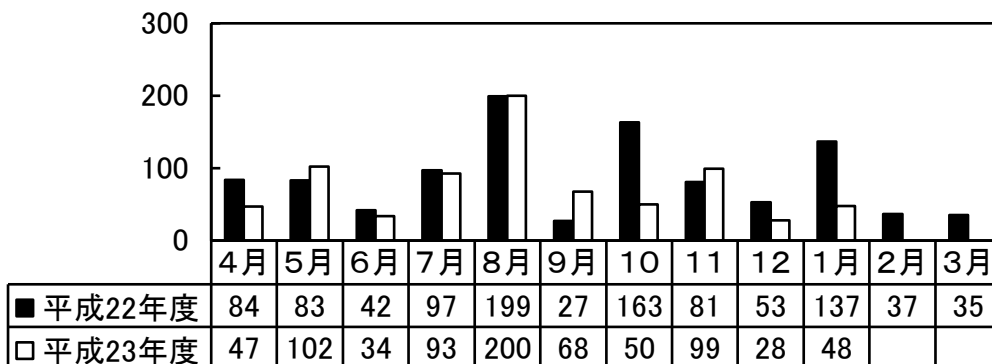
4. 入館者数

平成23年度 南種子町郷土館入館者数調査

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

分類	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	町外
4月	10	0	6	0	31	47	38	9
5月	36	0	0	0	66	102	68	34
6月	9	0	0	0	25	34	14	20
7月	48	6	0	1	38	93	67	26
8月	80	7	0	0	113	200	84	116
9月	22	0	0	4	42	68	37	31
10月	5	1	0	5	39	50	28	22
11月	49	1	0	0	49	99	85	14
12月	6	4	0	0	18	28	15	13
1月	5	0	0	1	42	48	19	29
2月	25	0	0	2	13	40	37	3
3月	22	1	1	1	30	55	27	28
計	317	20	7	14	506	864	519	345

月別 入館者数の動向(前年度比較)



5. 郷土館の組織

- 館長 岩屋秀男（教育長）
- 次長 小西嘉秋（社会教育課長）
- 文化係 石堂和博
小脇有希乃
- 管理員 豊島 巧
- 管理員（補） 平島典男
- 管理委員会委員長 羽生源志（文化財保護審議会委員長）
- 管理委員会副委員長 長田泰生（文化財保護審議会副委員長）
- 管理委員会委員 平野性賢（文化財保護審議会委員）
- 管理委員会委員 岩澤（文化財保護審議会委員）
- 管理委員会委員 鮫島正孝（文化財保護審議会委員）

6. 研究論文

「烏賊餌木」考

南種子町文化財保護審議委員 岩澤昭文

スライドによる解説



イカ(烏賊)



「いかつい(厳つい)」「いかめしい(厳めしい)」
とするなどたくさん諸説がある

「烏賊」:水面近くに舞い降りた鳥をイカが水面から飛び出して
食らい付いた光景を見た漁師が「烏賊/いか」と表現



イカ(烏賊)



1. 軟体動物門 頭足綱 十腕目 Decapoda
2. 神経系や筋肉がよく発達していて、たいていの種類は夜に行動
3. 体内には貝殻を持つが、種によって組成や形状が大きく異なる
4. 皮膚には色素細胞がたくさん並んでおり、精神状態や周囲の環境によって体色を自在に変化させる
5. イカの血は銅タンパク質であるヘモシアニンを含むために青色
6. 体の大きさに対しての眼球の割合が大きいことから、行動の多くは視覚による情報に頼っていると思われる
7. 寿命は1年

種子島の代表的なイカ

アオリイカ（ミズイカ）



コウイカ



ソデイカ



ルアー・疑似餌とは

Lure

定義

針が付いていて、動きや色・匂い・味などで、直接魚を誘う物

魚を釣る際に、本来魚が食べない物を餌として用いるもの



鷹狩りの調教に使う道具。タカやハヤブサなどの猛禽類の調教に使われる鳥の羽や動物の毛皮で作られたものでそれを獲物に見立てて振り回し、猛禽類に掴ませることで狩りを教えるのに使う。

ルアー・疑似餌の歴史(西洋)

1800年から1810年頃
イギリス製のルアー



「Phantom Minnow」
(ファントム ミノー)

1830年に湖に落としたスプーンをヒント
ジュリオ・T・ビューエル(Julio T. Buel)



「Wabler spoon」
ウォーブラースプーン

ルアー・疑似餌の歴史(日本)

疑似餌 → 餌木(えぎ)

イカを釣る釣法の一つ



日本最古といわれている

岡田喜一著「薩摩烏賊餌木考」によれば江戸中期（享保時代(1716-1735)

種子島あるいは屋久島で偶然発明され、この土地の漁師が用いていたのが
鹿児島市・枕崎市付近へ伝わったもの。

本来の漁師の漁法から、武士、藩主(島津氏)に広まり発展し現在の流行に至る

ルアー・疑似餌の歴史(日本)

餌木(えぎ)

漁火に使った松明が海中に落ち、木炭化したかけらにイカが抱きついたことから始まったとされている



イカ餌木の変遷



魚型



小魚(メジナ)型



エビ型



種子島の餌木

立石光義氏(南種子町立石在住) 聞き取り調査(H24年5月4日)

材質:クサギ(馬毛島クサギが良質)

月齢:8~10日

時間帯:19~24時

道糸の長さ:15ヒロ程度

戦後頃までは手漕舟を使用



種子島の餌木



所蔵・所有
西之表市 種子島開発総合センター
南種子町 郷土館
立石光義氏
立石勝則氏

参考
岡田喜一著「薩摩島賊餌木考」(1978)
Wikipedia